

### 町へ災害備蓄用パンを寄贈

#### 社会福祉法人南富良野大乗会 なんぶぐ香房森のパン屋

社会福祉法人南富良野大乗会（竹澤喜一郎理事長）が運営し、施設利用者が働いている「なんぶぐ香房森のパン屋」では、今年1月7日から災害備蓄用パン工場が操業を始めたことを記念して、町へ備蓄用パン1200缶を寄贈されました。

4月3日、竹澤理事長をはじめ大乗会の関係者が役場を訪れ、贈呈式が行われ、池部町長に目録と備蓄用パンの箱詰を手渡しました。池部町長は「ありがたく使わせていただきます。他の市町村でも利用してもらえよう町として



竹澤理事長から町長へ目録が手渡されました

も積極的にPRに努めたい」と話していました。

なんぶぐ香房では、交流のある檜山管内江差町の知的障害者施設「あすなろ学園」から技術指導を受けて、オープン当初から1日1200缶を受託製造してきました。これまでは、大乗会の別の施設で製造していましたが、からまつ園の敷地内に新工場を建設し、1日約4000缶の製造が可能になりました。

新工場では、あすなろ学園の協力を得て、新商品としてパン、かぼちゃ、クランベリー味の新しい備蓄用パンの

### 地元食材を利用した「カレー大福」も製造

なんぶぐ香房では、町商工会がエゾカツカレーに続くまちおこしとして企画した「カレー大福」も製造しています。「カレー大福」は、大きさが直径約7cm、厚さ約2cmで、下金山産はくちょうもち米を使用して、大福の中には、エ

### 幾多の功績を残し黒田消防団長が勇退

南富良野消防団の黒田實団長が3月31日をもって勇退されました。黒田団長は昭和39年以來45年間の永きにわたり消防業務にご尽力され、また、団長としての特に抜群な指揮能力は部下団員の信望を集め、かつ郷土愛護の精神に徹した生粋の消防人として地域住民の信望も厚く、町の消防行政に多大な功績を残されました。長い間本当にご苦労さまでした。後任には4月1日付で高橋逸郎副団長が昇任され、今後の消防行政に、より一層のご活躍を願うことになりました。また、後任の副団長には金子忠第4分団長が昇任、第4分団長には同副分団長の清水一文さんが発令され、今後団員のまとめ役としてご活躍願うことになりました。



高橋 新団長

黒田 前団長

### 学校給食に「なんぶぐ香房」のパンが登場

4月から町内各小中学校の給食に、「なんぶぐ香房森のパン屋」で製造された給食用パンの提供が始まりました。昨年度までは、町外の業者へ製造を委託していましたが、地元調達を観点から本年度より供給先を変更したものです。

給食用パンは、基準に基づいた原料を使用して製造され、本町の学校給食には、コッペパンやバターロールパン、スライスパンなど6種類のパンが毎週火曜日に提供されます。なんぶぐ香房の杉村所長は、「子どもたちのために、心をこめておいしいパンを提供していきたい。」と話していました。



△下金山小学校（4月14日）

### なんぶエゾカツカレー 発売11カ月で1万食を達成

本町の新しいご当地グルメ「なんぶエゾカツカレー」が昨年の5月15日に町内の提供店10店舗で提供が開始されてから11カ月で1万食を達成しました。

4月12日、道の駅南ふらの内の「ごほん家ラーチ」を訪れた親子が「エゾカツカレー」を注文し、1万食を達成。その場でセレモニーが行われ、なんぶエゾカツカレー推進協



川村会長から記念品を受け取り笑顔の竹内さん（中央）

議会の川村勝彦会長から、1万人目となった親子に、提供10店舗のエゾカツカレー無料券10枚やログホテルラーチのペア宿泊券、南富良野産馬鈴薯10キロなど総額5万円相当の記念品が贈られました。

1万人目のお客さんとなったのは、旭川市の竹内奈保子さん親子で、「旭川のイベントで何度か食べたことがあり、子どもがエゾカツを大好きで、また食べたいと言っていたので、帯広に出かける途中に寄りまして。」と笑顔で話していました。

南富良野で食べるのは、初めてという竹内さん親子に食後の感想を伺うと、「エゾカツがやわらかくてとてもおいしかったです。子どももおいしいと言って食べていました。また食べにきます。」と感想を話していました。提供開始から11カ月で1万食を達成したことについて川村会長は、「この日を待っていました。」とほっとした様子で、「5月15日には1周年を迎えるので、今後もイベントなどを企画して、もっと多くの皆さんに食べてもらえるようPRに努めます。」と今後に向けた抱負を話していました。

### ふらの農協ポテトチップス製造施設・ 加工用馬鈴薯貯蔵施設新築工事地鎮祭

ふらの農業協同組合（村山友希組合長）が幾寅地区に建設するポテトチップス製造施設と加工用馬鈴薯貯蔵施設新築工事の地鎮祭が4月22日に行われ、ふらの農協の関係者をはじめ、地元選出国會議員や池部町長、工事関係者など約70名が出席し、工事の安全と施設の建設が無事に行われることを祈願しました。

今回建設される施設は、ポテトチップス製造施設が鉄骨造2階建て延べ床面積3,202.73㎡、貯蔵施設は鉄骨造1階建て延べ床面積4,046.1



エイ・エイ・エイと声を発し刈初の儀を行う村山組合長

9㎡、排水処理施設RC造2階建て延べ床面積141.87㎡となっております。完成は、ポテトチップス製造施設が12月、貯蔵施設は9月の予定となっております。総事業費は約40億円で、そのうち国の農山漁村活性化プロジェクト支援交付金が約17億円、町が8億5千万円の財政支援を行い建設されます。ポテトチップス製造施設では、地元を中心に約60名が雇用され、11月に試験操業を行い、12月に操業が開始され、(株)湖池屋の商品が受託製造されます。



ポテトチップス製造施設の完成予想図